

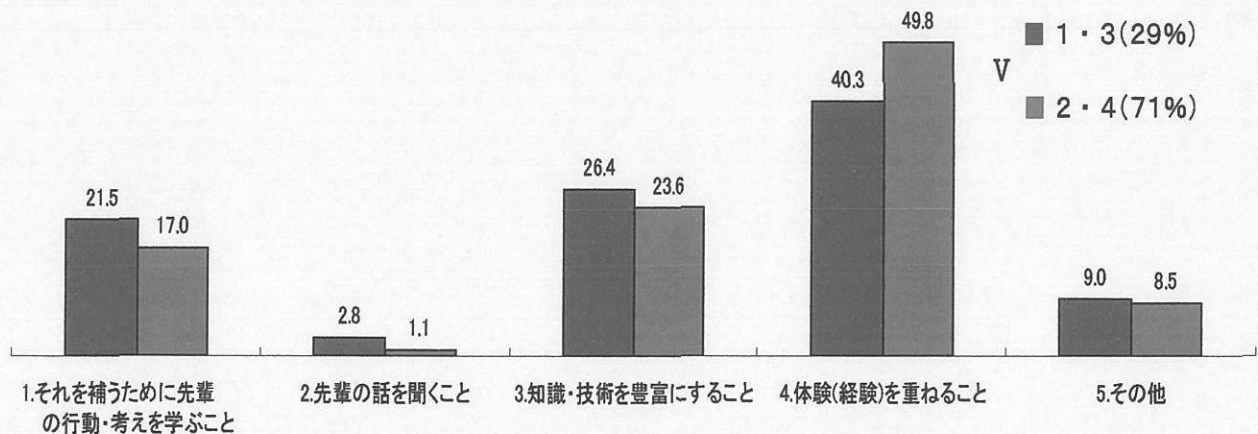
IIの良いところでは、

「素直であり、指示されたとおりに業務を遂行する」が46.5%と半数に近く、他の評価(2・4)をしている先を6.1ポイント上回っており、高卒資格者の良いところである。施設として、採用し施設の方針を早く、着実に浸透させ、入所者に施設として望む介護等を提供できることに最も深く関係することであり、高卒資格者の就職先施設からの評価を高め、成果を上げることに寄与しているものと考えられる。

一方、「明るく元気である」「積極的に行動する」「若さと向上心がある」等の項目で、2・4の評価をしている先に比し、若干低い回答になっているが、初めての社会経験、慣れないことによる不安、大人の言葉遣いへの戸惑いなどから気弱になることなどによるものであると考えられる。

素直で指示されたとおりに業務を遂行し(アンケートI)、施設方針に馴染みやすい(アンケートII)と評価している先が、各々46%、47%と半数近くの評価をしていることから考えると、高卒資格者が劣っているものではなく、経験を経ることによって解決できるものであり、時間が解決するものである。その期間とて長期間を要するものではなく、前記の高卒資格者の良さから短期間で解決できるものであり、実際、施設からもそのようなことを聞いている。

### III 社会経験が不足している高等学校福祉科卒業の介護士がより良い介護士となるために今以上望まれることは何ですか？



### III 「より良い介護福祉士になるために望まれること」

ここでは意外な結果が出ているものと考ええる。

「体験(経験)を重ねること」が2・4より、9.5ポイントも下回ることである。「体験・経験」より「先輩の行動・考えを学ぶこと」が4.5ポイント高い。これは、若い高卒資格者が戸惑っていることに対し、その対応方法を示しているものと受け止める。また、「知識・技術を豊富にすること」が2.8ポイントと若干高くなっているが、2年間以上のハンディを克服するために早く先輩の仕事振りを学び、臆することなく、これまで学んで来たことを前面に出し、行動し、施設の一員として早く一人前になる道を示しているものであり、また、その方途を指しているものと考えられるものである。